



Title	エウエン語の所有を表す接尾辞 -lkAn
Author(s)	鍛冶, 広真; Hiromi, KAJI
Description	特集 所有表現
Citation	北方言語研究, 2, 35-45
Issue Date	2012-03-26
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/49258">https://hdl.handle.net/2115/49258</a>
Type	departmental bulletin paper
File Information	04kaji.pdf



[特集 所有表現]

## エウエン語の所有を表す接尾辞 *-lkAn*

鍛治 広真

(東京大学大学院・博士課程)

### 1 はじめに

エウエン語<sup>1</sup>はツングース諸語の1つで、話者は主にロシア極東のサハ共和国、マガダン州などに居住している。基本語順はSOVであり、形態論は膠着型。屈折や派生は接尾辞の付加によって実現する。接尾辞は多くの異形態を持ち、異形態の選択は母音調和、語幹末の音など音韻的条件により決定される。「形容詞」と「名詞」はいずれにも格接辞が付加できるなど同様の活用をするため、両者を形態的に区別することはできない(Malchukov 1995:11)。本稿では所有を表す接尾辞*-lkAn*を取り上げる<sup>2</sup>。2節で接尾辞*-lkAn*の概要を説明したのち、3節では*-lkAn*が付加される名詞の種類と*-lkAn*の付加がもたらす意味を記述する。4節では接尾辞*-lkAn*の随伴を表す用法と共格構文とを比べその違いを考察する。5節では接尾辞*-lkAn*と共起する接尾辞について記述する。6節では接尾辞*-lkAn*と対照的な意味の欠如を表す句との非対称性を論じる。7節では本稿の結論を述べる。

### 2 接尾辞*-lkAn*の概要

attributive possession は(1)に示すように所有物を表す名詞に所有者人称接辞を付加することにより表す<sup>3</sup>。

- (1) *bii*    *dil-ŋ*  
私    頭-POSS.1SG  
「私の頭」

<sup>1</sup> 本論文は日本言語学会第142回大会のワークショップ「ユーラシア北東部諸言語の所有を表す接辞の意味論と構文論」における発表と予稿に基づいている。本稿で用いるデータはテキスト風間伸次郎(2003, 2009)にみられる用例、並びに筆者がロシア連邦サハ共和国ヤクーツク市およびホヌー村で行った調査で得た資料が含まれる。筆者による調査に協力して下さった話者はエウエン語母語話者であるが、他にロシア語、サハ語を使用する。Novikova (1960)、Malchukov (1995)によればエウエン語の方言は東部方言、中央方言、西部方言の3つに大別される。風間(2003, 2009)は東部方言のテキストであるが、筆者の調査は中央方言の地域で行われたものであるため、方言差に留意する必要がある。2002年実施のロシア国勢調査によるとロシア連邦内のエウエン人の人口は19071人、エウエン語話者の人口は7168人となっている。音素目録は次のとおり：/p, t, č[tʃ], k, b, d, j[dʒ], g, m, n, ŋ[n], ŋ, s[s~h], w, j, l, r, ɪ, ʊ, a, o, i, u, e[e~ə], ø/。本稿では基本的に音素表記を用いるが、[s]と[h]については音声的隔たりを考慮し区別して表記している。ロシア語からの借用語のうち固有語化していないものはラテン字に転写している。

<sup>2</sup> 接尾辞*-lkAn*は*-lkan/-lken/-alkan/-elken/-ilkan/-ilken*という異形態を持ち、母音調和規則及び語幹末の音によって交替する。接尾辞*-lkAn*の後に接尾辞が付加される場合には*-lkAn*の末尾のnが脱落する。

<sup>3</sup> 本稿で用いる記号、略号は次のとおり：-(接辞境界)、=(クリティック境界)、1(1人称)、2(2人称)、3(3人称)、ABES(欠如)、ABL(奪格)、ACC(対格)、AL(譲渡可能)、ASP(アスペクト)、AUG(指大辞)、CLT(クリティック)、COM(共格)、DIM(指小辞)、FUT(未来)、HAB(習慣)、IMP(命令)、IMPF(未完了)、INS(具格)、NONFUT(非未来)、PAST(過去)、PL(複数)、POSS(所有)、PROP(所有を表す接辞)、PSN(人名)、REF(再帰人称)、SG(単数)、VN(形動詞)

「～を持っている」という意味を表す接尾辞-*lkAn* は生産性が高く、様々な名詞語幹に付加することが可能である。先行研究では接尾辞-*lkAn* は「形容詞を派生する」接辞とされており(Benzing 1955:29、Cincius and Rishes 1952:722)、(2) (3)のような連体修飾用法や(4)のような叙述用法(コピュラ文における補語)で用いられる<sup>4</sup>。このほかに(5) (6)のように副詞句として用いることも可能である。意味は単純な所有に限られない(3章に詳述)。(3) (6)の例では人による物の所有ではなく、物に別の物が付属していることを表している。

#### [連体修飾用法]

- (2) *aawo-lkan*    bej  
 帽子-PROP    人  
 「帽子を持っている人」
- (3) *usi-lken*    ñan    *ručka-lkan*    tetradʔ  
 ひも-PROP    と    ペン-PROP    ノート  
 「葉とペンの付いたノート」

#### [叙述用法]

- (4) hii            *okeñ-ilken*            bi-se-nri=gu?  
 あなた    ミルク-PROP    ある-NONFUT-2SG=CLT  
 「あなたはミルクを持っていますか？」

#### [副詞句用法]

- (5) *aawo-lkan*    girka-d-da-m  
 帽子-PROP    歩く-IMPF-NONFUT-1SG  
 「私は帽子をかぶって歩く」
- (6) čaar-w        *okeñ-ilken*            kol-ji-m  
 茶-ACC    ミルク-PROP    飲む-FUT-1SG  
 「私はお茶をミルク入りで飲む」

<sup>4</sup> 「性質」「形状」などを表す所謂「形容詞」的な意味の語が単独で名詞句として使われることが可能であるため、*N-lkAn* が名詞句として機能する可能性が考えられる。筆者の現地調査では名詞句用法としての用例は得られなかったが、テキストには以下のような例が見つかっている。

himje-keje    bi-d-de-n                    asi.    øerep    *hute-lken=de*    (風間 2009:299)  
 PSN-AUG    ある-IMPF-NONFUT-3SG    女    その    子-PROP=CLT  
 ヒムグクはそんな風に暮らしていた、その女は。その子供が生まれた女は」

名詞句として使われているのか、それとも連体修飾用法の主要部が省略されているのかをこの例から判別することは困難であり、今後のさらなる調査と研究を要する。

### 3 所有物名詞の種類と*-lkAn*の表す意味

本節では接尾辞*-lkAn*の担う意味の広がりを見記述する。接尾辞*-lkAn*は物、性質などの所有を表すが、付加する名詞の種類により単純な所有に加えて様々な意味を表す。

#### 3.1 人間名詞

人間名詞のうち親族名詞に接尾辞*-lkAn*が付いて親族があることを表す(7)。

- (7) *meerker=teke-r oo-d xurke-ŋ-elke-l* (風間 2003:88)<sup>5</sup>  
 REF=だけ-PL なる-NONFUT.3PL 子-AL-PROP-PL  
 「(子供達は) 独立した、それぞれに子持ちだ」

また人間名詞全般に*-lkAn*が付いたものが副詞句として働き、随伴を表す(4節に詳述)。

#### 3.2 具体名詞

衣服・携行品などの具体物を表す名詞に接尾辞*-lkAn*が付いた場合、単純な所有、携帯以外の意味を表す。前節の(5)のように、携行品を表す具体名詞に接尾辞*-lkAn*が付いて副詞句として用いられる場合は、単に携帯しているだけではなく、現に所持し身につけて使用していることを表す。(8)も同様の例であり、単に「眼鏡を手に所持している」状態ではなく、「実際に眼鏡を顔にかけて使用している」状態を表している。

##### [着用]

- (8) *bii čüimet-elken em-di-w*  
 私 眼鏡-PROP 来る-VN.NONFUT-1SG  
 「私は眼鏡をかけて来た」

接尾辞*-lkAn*は容器を表す名詞や内容物を表す名詞に付き、連体修飾用法で用いられる。接尾辞*-lkAn*が容器を表す名詞に付くか、内容物を表す名詞に付くかによって、名詞句の主要部が異なる。

##### [容器*-lkAn* 内容物]

- (9) *jøer nua-lkan ulre-w emu-li*  
 2 皿-PROP 肉-ACC 持つてくる-IMP  
 「2皿の肉を下さい」

<sup>5</sup>例文のグロスには引用者による。日本語訳は引用元の訳に従っており、一部グロスが訳文に現れる語と一致していない箇所がある。なお引用に際して例文の表記は本稿の表記法に合わせている。

[内容物-lkAn 容器]

- (10) [jøer      *ulre-lken*]      nɪna-w      emu-li  
          2      肉-PROP      皿-ACC      持ってくる-IMP  
          「2切れの肉がのった皿を下さい」<sup>6</sup>

名詞に所有者人称接辞が付いている場合、更に-lkAn を付加することはできず、所有者人称接辞の付いた名詞が主要部になる。

- (11) \*bii      *doko-m-alkan*      sumka  
          私      手紙-POSS.1SG-PROP      袋  
          「私の手紙が入っている袋」

- (12) *sumka-lkan*      bii      *doko-m*  
          袋-PROP      私      手紙-POSS.1SG  
          「袋に入っている私の手紙」

身体部位など普通所有物(角田 2009:158)の所有を表す場合には、所有物の特別な性質が修飾語で明示され、非普通所有物扱いになることが多い。修飾語無しで「特別な N」の所有を表す例は抽象名詞で確認されている。

[身体部位]

- (13) egjen      *rasal-alkan*  
          大きい      目-PROP  
          「大きい目をした」

### 3.3 抽象名詞

抽象名詞に付加し、その抽象名詞の表す性質が備わっていることを表す。*eni-lken*「強い」(<*eni*「力」)、*nood-alkan*「美しい」(<*nood*「美」)、*merge-lken*「賢い」(<*mergen*「知性」)。

抽象名詞のうち「価値」「質」などの普通所有物に接尾辞-lkAn が付加する場合は、修飾語なしで「普通よりよい N」が備わっていることを表す。*eeri-lken*「高価な、貴重な」(<*eeri*「価値」)、*kačestvo-lkan*「質がよい」(<*kačestvo*「質」)。

<sup>6</sup> 数詞の *jøer* が *nɪna* 「皿」を修飾していると解釈することも可能である。

jøer      [ulre-lken      nɪna-w]      emu-li  
          2      肉-PROP      皿-ACC      持ってくる-IMP  
          「肉ののった皿を2枚下さい」

抽象名詞の普通所有物に、身体部分の例(13)と同じように、修飾語が付いて非普通所有物扱いになることもある。

- (14) *aj / kañalı biči-lken*  
 よい/悪い 気質-PROP  
 「よい/悪い気質の」

### 3.4 数詞

数詞に接尾辞*-lkAn* が付加されると人間の年齢または月齢を表す。実際に表されているのが年齢、月齢のどちらであるかは使用される文脈に拠る。

- (15) *dige-lken*  
 4-PROP  
 「4歳の、4ヶ月の」

## 4 随伴を表す用法における共格との対照

接尾辞*-lkAn* は人間を表す名詞に付いて随伴の意味を表す副詞句として用いることができる<sup>7</sup>。同様に随伴を表す形式として、ほかに共格がある。(16)は*-lkAn*、(17)と(18)は共格を用いた例文で、いずれの文も同じ意味を表す。

- (16) *egor varja-lkan bi-d-de*  
 PSN PSN-PROP ある-IMPF-NONFUT.3PL  
 「エゴールがワーリヤと暮らしている」
- (17) *egor varja-ñon bi-d-de*  
 PSN PSN-COM ある-IMPF-NONFUT.3PL  
 「エゴールがワーリヤと暮らしている」
- (18) *egor varja-ño-mi bi-d-de*  
 PSN PSN-COM-POSS.REF.SG ある-IMPF-NONFUT.3PL  
 「エゴールがワーリヤと暮らしている」

(18)にあるように共格は所有者人称接辞と共起することが可能で、随伴者が誰の関係者であるかを表現できる。一方、筆者の調査した限りにおいては、3.2節でも述べたとおり接尾辞*-lkAn* と所有者人称接辞が共起する例は不可能である<sup>8</sup>。上の例は随伴者が固有名詞で表

<sup>7</sup> 人称代名詞、人名の固有名詞は随伴の意味を表す副詞句用法に限り、接尾辞*-lkAn* の付加が可能である。

<sup>8</sup> 随伴を表す用法ではないが、風間(2003)には接尾辞*-lkAn* の後ろに「1人称単数の人称接辞がついたものと考えられる」以下のような形式がみられる。少なくとも随伴を表す用法では、このように接尾辞*-lkAn*

されているため、所有者人称接辞が付加できない接尾辞-*lkAn* を用いても、所有者人称接辞を付加できる共格を用いても意味に大差はない。ところが、随伴者が固有名詞ではなく親族名詞である例だと、意味の違いが明確になる。

随伴者を表す接尾辞-*lkAn* が付いた名詞句が親族名詞の場合、随伴者は主語の親族を表す。(19)の例では、「母」は必ず主語の「母」である。共格は所有者人称接辞と共起可能なため(20)のように主語以外の人の「母」の随伴を表現することができるが、接尾辞-*lkAn* ではそれが不可能である。

- (19) *noŋan eñi-lken em-de-n*  
 彼 母-PROP 来る-NONFUT-3SG  
 「彼は(彼の)母と来る」

- (20) *tiek buu hore-j-ji-ru eñ-ñun-sin* (風間 2003:98)  
 今 私達 去る-ASP-FUT-1PL 母-COM-POSS.2PL  
 「今私達は去ろう、おまえ達の母と一緒に」

接尾辞-*lkAn* と共格構文はどちらも随伴を表すが、所有者人称接辞との共起によって主語以外の人物の関係者を随伴者として表すことができるか否かという点に違いが見られる。

## 5 接尾辞-*lkAn* と共起する接辞

接尾辞-*lkAn* が所有者人称接辞と共起することが不可能であることはすでに述べたが、接尾辞-*lkAn* が他の一切の接尾辞と共起不可能ということはない。本節では、接尾辞-*lkAn* の前後に現れうる接尾辞のうち特に-*lkAn* の意味に深く関係すると思われる接尾辞、具格接辞と譲渡可能所有接辞を取り上げる。

### 5.1 具格接辞

3.2 節で扱ったとおり、衣類や携行品を表す名詞に接尾辞-*lkAn* が付いて副詞句として用いられる場合は、身につけて使用していることを表す(21)。これに似たものとして接尾辞-*lkAn* の後に具格接辞<sup>9</sup>が付いた形も副詞句として用いられ、現に所持していることを意味する(22)。接尾辞-*lkAn* に具格接辞が付かない(21)と具格接辞の付いた(22)はどちらも現に所持していることを意味する点は同じで、両者の違いは「着用」という含意の有無にある。(21)では現に所持している物の着用を常に含意する。一方(22)では、着用中であることを表すこともできるが、必ずしも着用中の意味が含意される訳ではない。

---

と所有者人称接辞が共起する例は見られない。

- |                          |                 |                   |
|--------------------------|-----------------|-------------------|
| <i>tiitel jogri-lk-o</i> | <i>haarak-o</i> | <i>bi-n-ni</i>    |
| 以前 貧しさ-PROP-POSS.1SG     | 知り合い-POSS.1SG   | ある-ASP-NONFUT.3SG |
| 「以前私が貧乏だった時の私の知り合いがいるのだ」 |                 | (風間 2003: 90)     |

<sup>9</sup> 具格接辞には異形態-*čj/-ñ/-či/-čj/-ji/-jī* がある。-*lkAn* の後に付加される場合は-*lkA-ñ* となる。

## [着用]

- (21) *bii čiiimet-elken em-di-w*  
私 眼鏡-PROP 来る-VN.NONFUT-1SG  
「私は眼鏡をかけて来た」

## [着用/携帯]

- (22) *bii čiiimet-elke-ň em-di-w*  
私 眼鏡-PROP-INS 来る-VN.NONFUT-1SG  
「私は眼鏡を持って/かけて来た」

接尾辞-*lkAn* だけで具格接辞がないと着用中であることが含意されてしまうが、具格接辞を伴った形は単なる携帯、所持を表すことができる。そのため、通常着用しない物の携帯を副詞的に表す場合は、例文(23)のように接尾辞-*lkAn* とともに具格が用いられる。

## [携帯]

- (23) *komnata-dok kniga-lka-ň em-de-m*  
部屋-ABL 本-PROP-INS 来る-NONFUT-1SG  
「部屋から本を持って来る」

## 5.2 譲渡可能接辞

譲渡可能な所有物の所有を表す際には譲渡可能接辞-*ŋ* が使用される。(24)は譲渡可能接辞-*ŋ* がなければ、カメラの三脚ではなく、所有者の身体部分としての脚を表す。

- (24) *boodel-ŋ-elken*  
脚-AL-PROP  
「(カメラの)三脚をもっている」

ただし、譲渡可能接辞は義務的な要素ではない。したがって譲渡可能接辞が付かない場合に必ず譲渡不可能の意味を表すわけではない。3.2 節の(9)、(10)は身体部分の肉ではなく、食べ物の肉なので譲渡可能であるが、譲渡可能接辞が現れていない。

## 6 欠如を表す形式

接尾辞-*lkAn* と意味の面で対をなすものとして、欠如を表す句がある。欠如を表す句は名詞語幹に接尾辞-*LA* を付加し、*aač* 「ない」を前置することで形成される<sup>10</sup>。*aač or-na* 「トナカイを持っていない」 (<*oran* 「トナカイ」)、*aač baad-la* 「透明な」 (<*baad* 「外見」)。

この欠如を表す形式を *aač -LA* 句と呼ぶことにし、本節ではこの形式と所有を表す接尾辞-*lkAn* の対照し、特徴の相違を記述する。

<sup>10</sup> 接尾辞-*LA* には異形態-*la/-le/-na/-ne* がある。

## 6.1 aač -LA 句の概要

aač -LA 構文は、意味の面では接尾辞-lkAn と対照的に欠如、非所有、非随伴、不携帯の意味を表す<sup>11</sup>。接尾辞-lkAn は普通所有物に付加したときに単純な所有ではなく、「普通よりよい」という特別性が表される(25)。これと対照的に aač -LA 構文では、普通所有物について N の欠如ではなく、「普通よりよくない N」の所有を表す(26)。

- |                           |                             |
|---------------------------|-----------------------------|
| (25) <i>kačestvo-lkan</i> | (26) <i>aač kačestvo-la</i> |
| 質-PROP                    | ない 質-ABES                   |
| 「質がよい」                    | 「質が悪い」                      |

統語的な面では、aač -LA 構文は接尾辞-lkAn と同様に連体修飾用法(27)(28)、叙述用法(29)、副詞句用法(30)がある。

### [連体修飾用法]

- |                             |  |
|-----------------------------|--|
| (27) <i>aač aawo-na</i> bej |  |
| ない 帽子-ABES 人                |  |
| 「帽子のない人」                    |  |
- 
- |   |               |
|---|---------------|
| (28) <i>tenke doo-n egje-keje aač mod-na uutn</i> |               |
| 木 中-POSS.3SG 大きい-AUG ない 終わり-ABES 土小屋              |               |
| 「その木の中は大きくて果てしない半地下式の家だ」                          | (風間 2003:129) |

### [叙述用法]

- |                                     |
|-------------------------------------|
| (29) <i>bii aač aawo-na bi-se-m</i> |
| 私 ない 帽子-ABES ある-NONFUT-1SG          |
| 「私は帽子を持っていない」                       |

### [副詞句用法]

- |  |
|--|
| (30) <i>bii aač aawo-na-č her-re-m</i> |
| 私 ない 帽子-ABES-INS 去る-NONFUT-1SG         |
| 「私は帽子を持たないで行く」                         |

## 6.2 所有と欠如の非対称性

一見したところでは、接尾辞-lkAn と aač -LA 構文は統語的な用法が共通で意味が反対という対称性を持っているようだが、形態法上の諸特徴を検討していくと非対称な点があることがわかる。まず、接尾辞-lkAn は、具格接辞の有無による意味の違いはあるが、具格

<sup>11</sup> aač -LA 構文を用いた表現の中には、語彙化した名詞になっているものもある。

*aač gerbe-le* 「薬指」(<gerbe 「名前」)。

接辞なしでも副詞句として用いることが可能である(31)。一方、*aač* -LA 構文は副詞句として用いられる際には必ず具格接辞を伴う(32)。

- (31) *aawo-lkan*    *girkad-da-m*  
 帽子-PROP    歩く -NONFUT-1SG  
 「私は帽子をかぶって歩く」
- (32) *bii*    *aač*    *aawo-na-č*    *hør-re-m*  
 私    ない    帽子-ABES-INS    去る -NONFUT-1SG  
 「私は帽子を持たないで行く」

また接尾辞 *-lkAn* と *aač* -LA 構文では、付加することができるホストに差がみられる。接尾辞 *-lkAn* は疑問詞や指示詞に付加することができないが、*aač* -LA 構文は疑問詞から形成することが可能である(33)。

- (33) *øme-kkeen.*    *aač=ta*    *jaa-la.*    (風間 2003:139)  
 1 -DIM    ない=CLT    何-ABES  
 「一人だった。何も無くて、だ」

形動詞<sup>12</sup>から形成された例は *aač* -LA 構文のみ見つかっている。(34) (35)。

- (34) *tonŋan*    *iŋenu*    *aač*    *jep-če-le*    *bi-weet-te-m*  
 5    日    ない    食べる -VN.PAST-ABES    ある -HAB-NONFUT-1SG  
 「5日間食べ物無しでいた」    (風間 2003:97)
- (35) “*tonŋan*    *ineŋu*”    *gøøn-ni,*  
 5    日    言う -NONFUT.3SG  
 “*aač*    *jep-če-le-j*”  
 ない    食べる -VN.PAST-ABES-POSS.REF.SG  
 『5日も』と言う、『何も食べていないんです』    (風間 2003:80)

## 7 おわりに

本稿ではエウエン語の所有を表す接尾辞 *-lkAn* の諸用法について考察した。特に随伴を表す副詞句用法では所有者人称接辞との共起関係という点で、同じく随伴を表す共格接辞との違いがあることを示した。具体物に付加する場合、接尾辞 *-lkAn* の副詞句用法は現に所持していることを表す。この用法では接尾辞 *-lkAn* の後に具格接辞の付かない形と具格接辞の付く形がある。接尾辞 *-lkAn* の後に具格接辞が付かない場合は着用中であることを

<sup>12</sup> 形動詞は動詞語幹に形動詞接尾辞を付加することで形成される。形動詞は名詞と同様の形態論的操作を受ける。

意味するのに対し、具格接辞が付く場合は着用中であることを必ずしも含意しない。また所有を表す接尾辞-*lkAn* と対をなす欠如を表す *aač* -LA 構文が存在するが、形態統語的には接尾辞-*lkAn* と *aač* -LA 構文の間で部分的に非対称な点が見られる。

#### 参考文献

- Benzing, J. 1955. *Lamutische Grammatik*. Wiesbaden: Franz Steiner.
- Cincius, V. I. and Rishes, L. D. 1952 *Russko-evenskij slovar'*. Gosdarstvennoe izdatel'stvo inostrannykh i nacional'nykh slobarej.
- 風間伸次郎. 2003. 『エウエン語 テキストと文法概説』(ツングース言語文化論集 23). 吹田：大阪学院大学情報学部.
- 風間伸次郎. 2009. 『エウエン語テキスト 2(A)』(ツングース言語文化論集 45(A)). 東京：東京外国語大学
- Malchukov, A. L. 1995. *Even (Languages of the World/Materials ; 12)*, Lincom Europa, München.
- Novikova, K. A. 1960. *Očerki dialektov evenskogo jazyka; ol'skij govor, chast' I*, Izdatel'stvo akademii nauk SSSR. Leningrad.
- 角田太作. 1991 [2009]. 『世界の言語と日本語』 東京：くろしお出版.

### Proprietary Suffix *-lkAn* in Ewen

Hiromi KAJI

(The University of Tokyo)

In this paper, I examined characteristics of *-lkAn*, a proprietary suffix in Ewen. Added to nominal stems, this suffix expresses possession. Nominals suffixed with *-lkAn* (*N-lkAn*) function as adnominals, predicates, and adverbials. The semantic extent of the suffix *-lkAn* is not limited to possession, but covers various meanings. In adverbial usage, the suffix conveys the meaning of “possession at that very moment”. The other meanings expressed by *N-lkan* are as follows:

- (i) An accompanier, when added to a noun that signifies a person, a personal pronoun, or a proper noun of person name (in adverbial usage).
- (ii) Clothing in a state of “on (being worn)” or “in use”, when added to a noun that signifies clothing.
- (iii) A quantitative unit, when added to a noun that signifies containers.
- (iv) A person's age, when added to a numeral.

Although the meaning of “accompanying” can be expressed by the comitative case as

well as the suffix *-lkAn*, these two constructions are significantly different. On one hand, the comitative case suffix can co-occur with a possessive person suffix; on the other, the suffix *-lkAn* cannot.

*N-lkAn* can serve as adnominals either with or without an instrumental case suffix. Without the instrumental case, it means a state of “on” or “in use”, whereas, with the instrumental case, it does not necessarily imply the state.

In addition, there is an abessive form, *aač -LA* phrase, which is semantically opposite to the proprietive suffix *-lkAn*. The meaning of the *aač -LA* phrase covers absence, non-possession, and non-accompanying. The proprietive suffix and the abessive form share certain similarities in that they both have adnominal, predicative, and adverbial usage. However, in terms of morphosyntax, they show some differences for instance, in adverbial usage, the *aač -LA* phrase requires an instrumental case suffix while *N-lkAn* can be used as an adverbial either with or without the instrumental case suffix.

(かじ・ひろみ kaji@live.jp)